



PC 建築部会長

加藤 茂裕

トヨタT&S 建設株式会社
代表取締役社長

令和7年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。会員各社の皆さま方には普段から、PC建築部会の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は能登地方での地震と豪雨災害、全国的な夏季の猛暑続きなど自然災害の影響を大きく受けた年でした。地球全体での気候変動の影響は、食料品など生活と直結した物価の上昇につながっており日々の暮らしでも悩みの種です。われわれの建築業界においても原材料費や燃料費などの物価上昇は、事業経営での深刻な課題となっております。

一方で、国内での建築需要はデベロッパーによる都市部での集合住宅を含めた再開発事業や大規模物流拠点整備を中心に堅調であり、加えて半導体、電池製造や製薬などの国内回帰の動きもあり、しばらくは高負荷状態が続くものと見込まれますが、建設の現場では慢性的な人材不足が続いており、これまでの標準工期では担いきれないリスクが散見されています。また建設業や物流業において昨年4月から規制が適用となった、働き方改革関連法の一つである「時間外労働の上限規制」の順守もあり、各社ともに人材確保に必死な状況であります。

しかしながらこれを建築業界が変わるチャンスとして捉え、勤務時間の計画的なコントロールやキャリアアップのしくみの導入、IoTやDXの推進、業務改廃による標準化や生産性の向上を図ることにより、働きやすく且つモノづくりの魅力あふれる建設業を目指していきたいと考えます。建築業界が持続的成長を遂げるためには、BIM/CIMなどデジタル技術の導入による品質向上および業務スピードのアップ、人に代わって作業をこなすロボティクス技術の活用や現地工事レスを狙ったプレハブ化、ユニット化などの施策による省人化などがいっそう重要視されてきています。

また建築業界を取り巻く環境としてのSDGsにもいっそうの注目が集まってきております。災害に強く安心して暮らせるまちづく

り、住まいづくり、カーボンニュートラルへの貢献はもちろんのこと、資源有効活用として老朽化した既存施設のリニューアルやリノベーション技術の開発など、今後もプレハブ建築への期待は大きいものと考えられます。

PC建築部会におきましてはプレキャストコンクリートの強みである耐震、耐火性はもちろんのこと、高い環境性能や工期短縮効果についてもさらなる技術研鑽を進めております。災害からの復興住宅対応への備えや既設集合住宅の建替え、リノベーションなどの取り組みを通じて、PCの持つポテンシャルを引き出し、PC工法の普及に努めてまいります。

併せて「PC構造建築物等PC審査事業」「PC部材品質認定事業」「PC部材製造管理技術者資格認定事業」「PC工法施工管理技術者資格認定事業」の主要事業を通じてPC建築に関わる場づくりと人づくりを進めておりますが、現地現物とリモートを併用しながらの事業運営を進化させ、スピード感を持って柔軟に対応しております。

PC建築業界にとって個社での持続的成長には乗り越えなければならないハードルがいくつも立ちはだかっている状況が続きますが、日頃切磋琢磨している各社が中長期の課題に向かって、皆で知恵と技術を絞り出し合いながら解決策を見出していけるチャンスでもあります。PC建築部会が仲間を結びつける役割を果たし、業界全体での建築手法の進化と技術者の育成に努めていく所存です。今後とも、皆さま方の格別なるご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社さまの社業のますますのご発展と、今年一年の皆さま方のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。